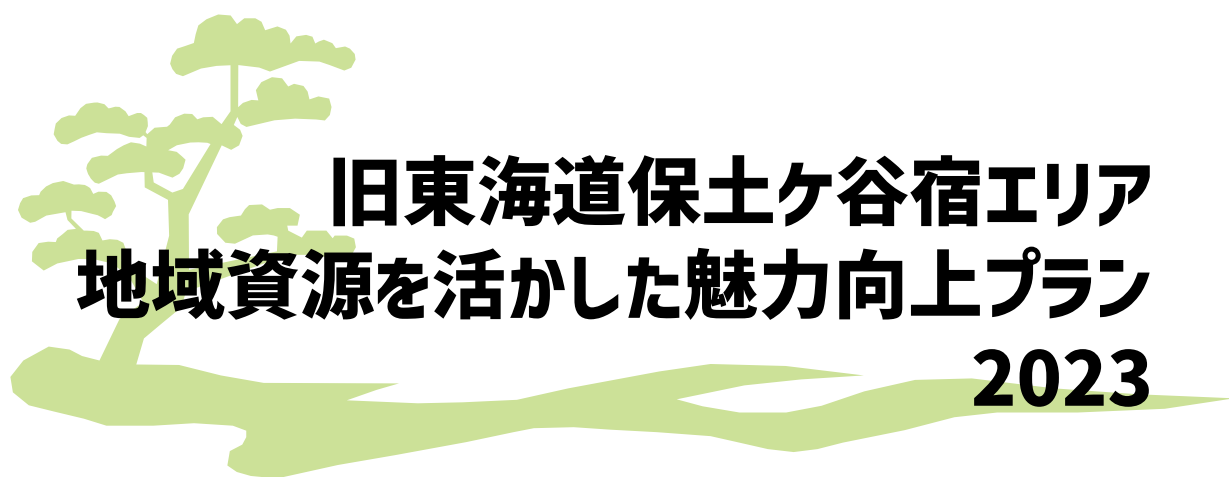




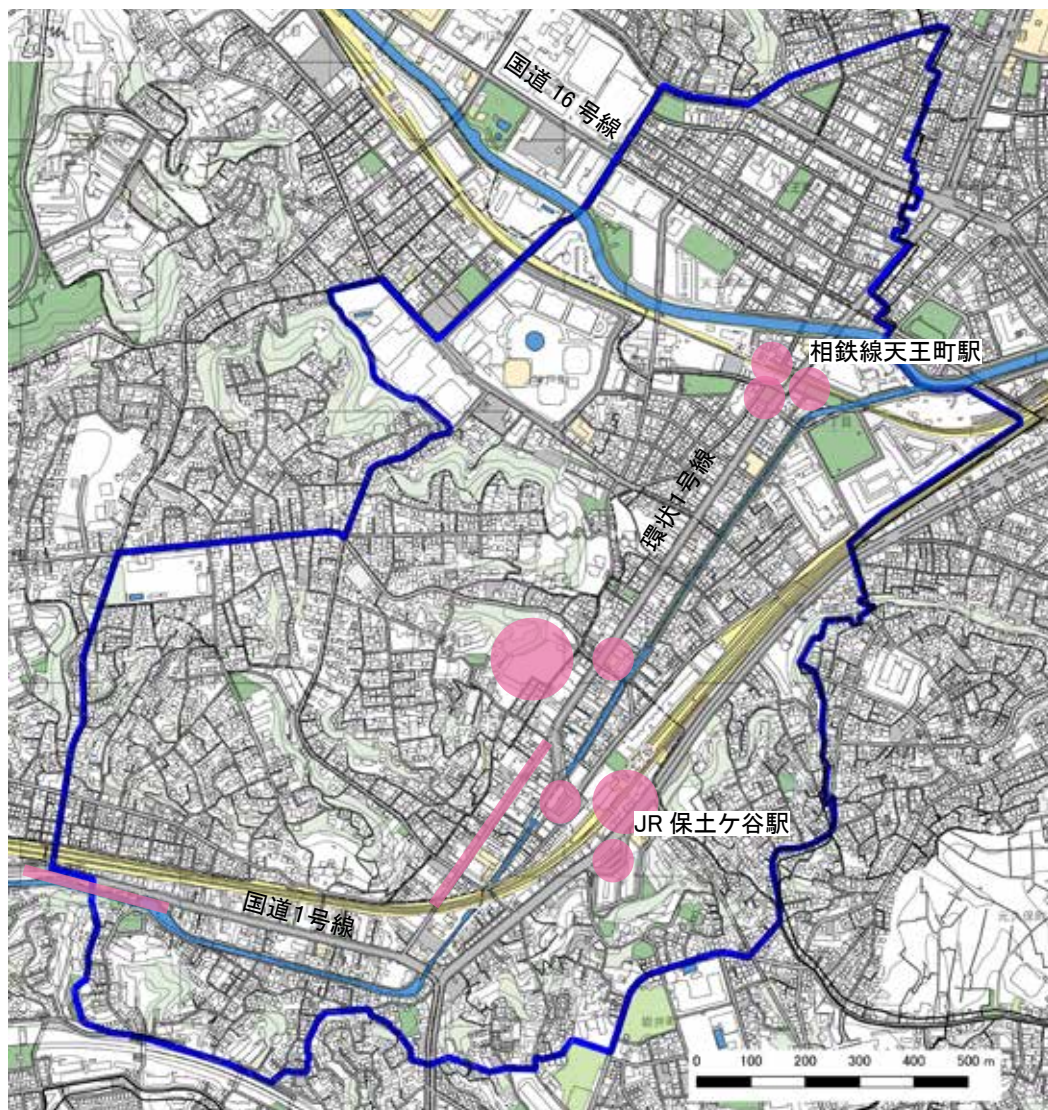
旧東海道保土ヶ谷宿エリア 地域資源を活かした魅力向上プラン 2023

(仮称) 旧東海道保土ヶ谷宿を未来へつなげるまちづくり協議会

— 目次 —

1. はじめに —地域による地域のプランをつくる—
2. 保土ヶ谷宿の資源とこれまでの取組み
3. 目指すまちの姿
4. エリア別のまちづくり目標
5. 歴史を活かしたまちづくりプロジェクト
6. まちづくり協議会の構成図

—旧東海道保土ヶ谷宿エリア—



(全部) 天王町 1 丁目、天王町 2 丁目、岩間町 1 丁目、岩間町 2 丁目、西久保町、月見台、帷子町 1 丁目、帷子町 2 丁目、霞台、保土ヶ谷町 1 丁目
(一部) 宮田町 1 丁目、宮田町 2 丁目、神戸町、岩井町、桜ヶ丘 1 丁目、保土ヶ谷町 2 丁目、瀬戸ヶ谷町

1. はじめに ―地域による地域のプランをつくる―

背景

旧東海道保土ヶ谷宿エリア（以下「保土ヶ谷宿エリア」）は、旧東海道「保土ヶ谷宿」として発展してきたことを物語る歴史的資源が残されていますが、道路の拡幅整備やまちの構造の変化などにより、積み重ねられてきた歴史のつながりが希薄化しつつあります。また、近年では保土ヶ谷駅前に立地する旧保土ヶ谷県税事務所跡地の活用や駅前東口ロータリーのバリアフリー整備が順次行われる一方で、保土ヶ谷宿エリアには、まちづくりへの活用が見込める用地や道筋などの低未利用地が数多く点在しています。

これまで宿場まつりや松並木整備をはじめとして、地域住民による歴史を生かしたまちづくりが長年に亘って取り組まれてきました。

地域まちづくりプランの目的

背景に示した長年の積み重ねや近年のまちの変化を踏まえ、保土ヶ谷宿エリアの歴史を活かしたまちづくりを次のフェーズに進めようという動きが令和元年度にはじまりました。令和2年度には、「（仮称）旧東海道保土ヶ谷宿を未来へつなげるまちづくり協議会」を発足し、まちづくりの検討を進めてきました。今後は、協議会を正式に設立し、本プランを地域のひとつのビジョンとして共有しながら、旧東海道保土ヶ谷宿の歴史的資源と文化を活かして、区民の活力を発揮し、まちの活性化と地域の拠点づくりを進めていくことを目的としています。

地区内の公共施設・公共用地など



相鉄線天王町駅



天王町駅前の高架下



天王町駅前公園



保土ヶ谷小学校跡地



旧交通反則通告センター



保土ヶ谷駅西口広場



今井川



JR 保土ヶ谷駅



保土ヶ谷駅東口広場



岩間市民プラザ



保土ヶ谷駅西口商店街



松並木プロムナード

2. 保土ヶ谷宿の資源とこれまでの取り組み

保土ヶ谷宿の資源

保土ヶ谷宿は、慶長6年（1601年）、東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿場として誕生し、江戸から約33km（8里9丁）で品川・川崎・神奈川に続く4番目の宿場です。保土ヶ谷宿は、芝生村追分（現在の西区との境）から、境木地蔵（現在の戸塚区との境）までの約5kmで、追分から北は神奈川宿、境木地蔵から南は戸塚宿の管轄でした。宿場として街並みを整えていたのは、約2kmの間で、そこには本陣を中心に旅籠や茶屋、商店が立ち並び、宿場町としてにぎわいを見せていました。

現在でも、東海道の宿場として発展してきた保土ヶ谷には、宿場の歴史をはじめとして様々な時代の歴史的な資源が数多く残されており、保土ヶ谷宿エリアでは、これら歴史資源を活かしたまちづくりへの機運や住民の絆を深める動きが高まっています。

これまでの市民協働・公民連携の取り組み

旧東海道保土ヶ谷宿エリアの市によるまちづくりについては、平成12年に横浜市都市計画マスタープランにおける地区プランとして「保土ヶ谷駅周辺地区プラン」（保土ヶ谷区）が策定され、まちづくり目標・方針が示されました。その中には、保土小跡地まちづくり拠点プロジェクトや、保土ヶ谷駅前をまちの顔とする景観整備プロジェクト、地域の歴史をまちの活性化につなげるプロジェクト等が挙げられています。具体的な実施の方向性等については、平成19年に「保土ヶ谷区 歴史を活かしたまちづくり～歴史まちなみ基本構想～」（保土ヶ谷区）が策定され、まちかど博物館事業の実施等に取り組んできました。

平成23年度には「東海道の歴史的資源を活かしたまちづくり」の整備方針の検討、翌年度には具体的な整備計画が取りまとめられています。そこでは、集積した歴史をまちづくりを通じて未来へつなげていくため、市民参加による歴史的資源を活用したまちづくりの検討が行われました。

平成28年度には、「旧東海道『保土ヶ谷宿』を未来へつなげるまち・みち再生計画」（横浜市道路局・保土ヶ谷区）を策定、市民参加型のワークショップ等を基に道路づくりと拠点づくりを実現するための計画が定められ、まちづくりの発展の方向性や重点地区の再生計画の具体的方針が示されました。

当協議会では、これらの計画に基づき、さらに進展させるべく市民主体によるまちづくりの実現を目指しています。

- ・旧東海道保土ヶ谷宿エリアでは、先述の通り、市民参加型での継続的なまちづくりの検討が行われてきましたが、各計画で掲げられたプロジェクトやアクション計画の実現や進展状況を整理すると、実現や事業化に至っていない又は今なお不十分な項目が目立ちます。（下表）
- ・これまでの取組みは、行政主導による市民参画型で検討が進められてきましたが、これらの実現性を高め、進展度を高めるためには、市民主体によるまちづくりが求められます。市民による小さなプロジェクトの芽が増えていくことで、市民のまちづくり意識が高まり、行政による大きなプロジェクト化への機運に繋がると考えます。

当協議会が考える既存計画に掲げられた各プロジェクトの進捗状況のまとめ

計画名	プロジェクト・アクション基本計画	具体的内容	プロジェクトの進捗状況・実現状況
「保土ヶ谷駅周辺地区プラン」（保土ヶ谷区、H12）			
	保土小跡地まちづくり拠点プロジェクト	住民と行政のパートナーシップによる跡地利用プランづくり	△暫定利用のまま、低未利用地となっている。
	保土ヶ谷駅前すっきりプロジェクト	交通広場機能の整備／バリアフリー／川や歴史を生かした保土ヶ谷にふさわしい景観整備	△依然として、駅前の広いスペースを駐輪場が占め、バリアフリー問題の課題も残っている。
	やすらぎの住環境プロジェクト	住民による花いっぱい運動／バリアフリーの導入／高齢者が生活しやすい方策の検討／緑の保全・創出方法の検討	△R2年度のまちづくりアンケートにおいて、坂の多い地区での生活や交通に対する不便・不安の声は多く寄せられた。継続的な検討が必要である。
	歩きたくなるまちプロジェクト	今井川の親水性向上方策の検討／散策コースの整備／案内サイン・標識の整備／歴史的及び近代建築の保存方法の検討	○松並木ブロムナード整備 ○歴史の道サインやモニュメント整備 ○ほどがやガイドボランティアの会発足
	保土ヶ谷宿プロジェクト	史跡の保全と沿道案内板の整備／情報発信の充実／宿場らしさの再現	○宿場らしさを伝えるサインやモニュメント等が徐々に整備されてきた。 △但し、今なお情報発信の機能不足が指摘される。
	幹線道路等整備プロジェクト	環状1号線の延伸・沿道修景の検討／国道1号の拡幅／地区幹線道路の整備／上岩間踏切の改善	△国道1号（保土ヶ谷橋工区）は拡幅工事の事業計画は示されているが、工事着手には至っていない。
	花開け市民パワープロジェクト	住民活動拠点の整備／地域福祉の充実／子どもたちの集いの場づくり／スポーツや文化活動の支援	○県税事務所跡地に地域交流センターが設置予定（工事中）、地域活動の拠点整備が見込まれている。
「保土ヶ谷区 歴史を活かしたまちづくり～歴史まちなみ基本構想～」（保土ヶ谷区、H19）			
	お休み処の整備	来街者や地元住民が一休みできる場の創出	△一部整備済みだが、不足している。
	まちかど博物館	来街者と区民との交流促進、歴史の情報発信	○実施済み
	本陣や本金子屋の保全	貴重な歴史資源を守る	○保全継承されている
	保土ヶ谷小学校跡地の活用	低未利用地の活用策検討	△暫定利用のまま、低未利用地となっている。
	サインとサイン周辺の魅力づくり	十分に整備されているサインの周辺の魅力向上	△一部整備済みだが、不足している。
	松並木ブロムナードネットワークプロジェクト	歴史性を活かした安心・快適な歩行空間の整備	○松並木ブロムナードが整備された。
	旧東海道沿いのルールづくり	旧東海道の歴史性を活かした街並みルールづくり	△歴史性が希薄である。
	宿場まつり等のイベントの発展	各商店街や市民団体と連携したイベントの発展	○長年の活動実績が高く評価されている。 △継続的な実施が望まれる。
	誇りと愛着を持って住み続けられる住環境づくり	保土ヶ谷ならではの住環境・景観づくり（歴史的建造物の保全活用、緑地や眺望の保全等）	△景観的な評価は低い。
「旧東海道『保土ヶ谷宿』を未来へつなげるまち・みち再生計画」（横浜市道路局・保土ヶ谷区、H28）			
	道筋の再生と道路景観づくり	旧東海道の道筋の連続性を高めるデザイン導入	△旧東海道沿いは連続性があまり感じられず、歴史性も希薄である。
	情報発信・交流促進拠点づくり	拠点機能と地域資産（歴史・地域資源・人材・活動）を活かした交流促進	△情報発信・交流促進拠点の不足が指摘される。
	地域活動連携	地域活動連携を促す支援と空間形成／計画・整備・管理プロセスにおける地域との連携	○県税事務所跡地に地域交流センターが設置予定（工事中）、地域気活動の拠点整備が見込まれている。

凡例：○一定の到達点に達している、プロジェクトが進行している

△実現や事業化には至っていない、又は今なお不十分な点が残る

3. 目指すまちの姿

まちづくり目標

歴史の重層性の中で育まれてきた歴史資源・地域資源を活かし、保土ケ谷らしい魅力を創出していくことを目標としています。まちの魅力が発見・体感できる「場」をまちに徐々に増やしていき、個々の「場」を旧東海道保土ケ谷宿という軸「線」で結ぶことで、まちの魅力が枝葉の様につながり、まち全体として面的な魅力を高めていくことを目指します。

旧東海道を軸とした地域の魅力資産のネットワーク構築イメージ図



実現に向けた方策

実現に向けたプロジェクトには、個人や民間による単独事業や、公民連携による協力事業、さらには行政主導による事業が挙げられます。協議会が担う役割とプロジェクトの方向性を下記に示します。

協議会

当協議会では、まちづくりに関連する各種取組みの把握や横繋ぎ、相談窓口などの役割を担います。各事業者と連携・協力しながら、それぞれが「地区の魅力向上」という同じ目標や方向性を持つプロジェクトとなることを推進・応援し、徐々に仲間を増やながら、地区全体の面的な魅力を創り出すことを目指します。

個人や民間

個人や民間事業者が保土ヶ谷の魅力資産の発信プロジェクトへの関心を高め、実際的な取組みへの動きを創出していくことを目指します。魅力発信プロジェクトの実施を働きかけ、仲間を増やし、単体のプロジェクトを旧東海道というネットワークでつながることで、まち全体での魅力向上を図ります。

公共×民間（公民連携）

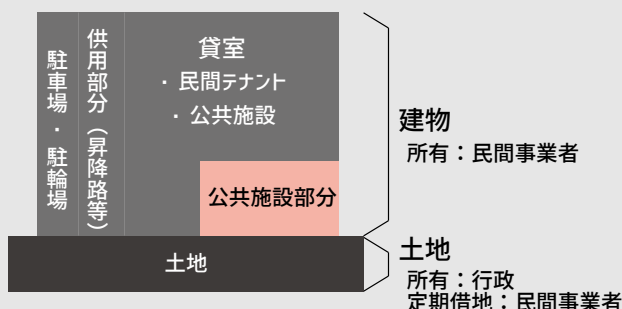
保土ヶ谷駅周辺には、公共用地が点在するが、それらは低未利用地となっている状況下にあります。今後の事業化に際しては、地区の魅力向上のための新たな機能導入等が期待され、プロジェクト進行に際しては、「公共」×「事業者」×「まちづくり協議会」の各組織が連携・協力し合い、地区全体の魅力を高めるプロジェクト化を進め、一緒に検討していける場づくりを目指します。

公民連携事業による施設整備の一例

- 駅前未利用市有地の有効活用例
— 『QuOLa（クオラ）』
（東京都武蔵野市、2018年開設）

- 公的不動産及び民間所有の低未利用地の再開発事例
— 大和市文化創造拠点シリウス
（神奈川県大和市、2016年開設）

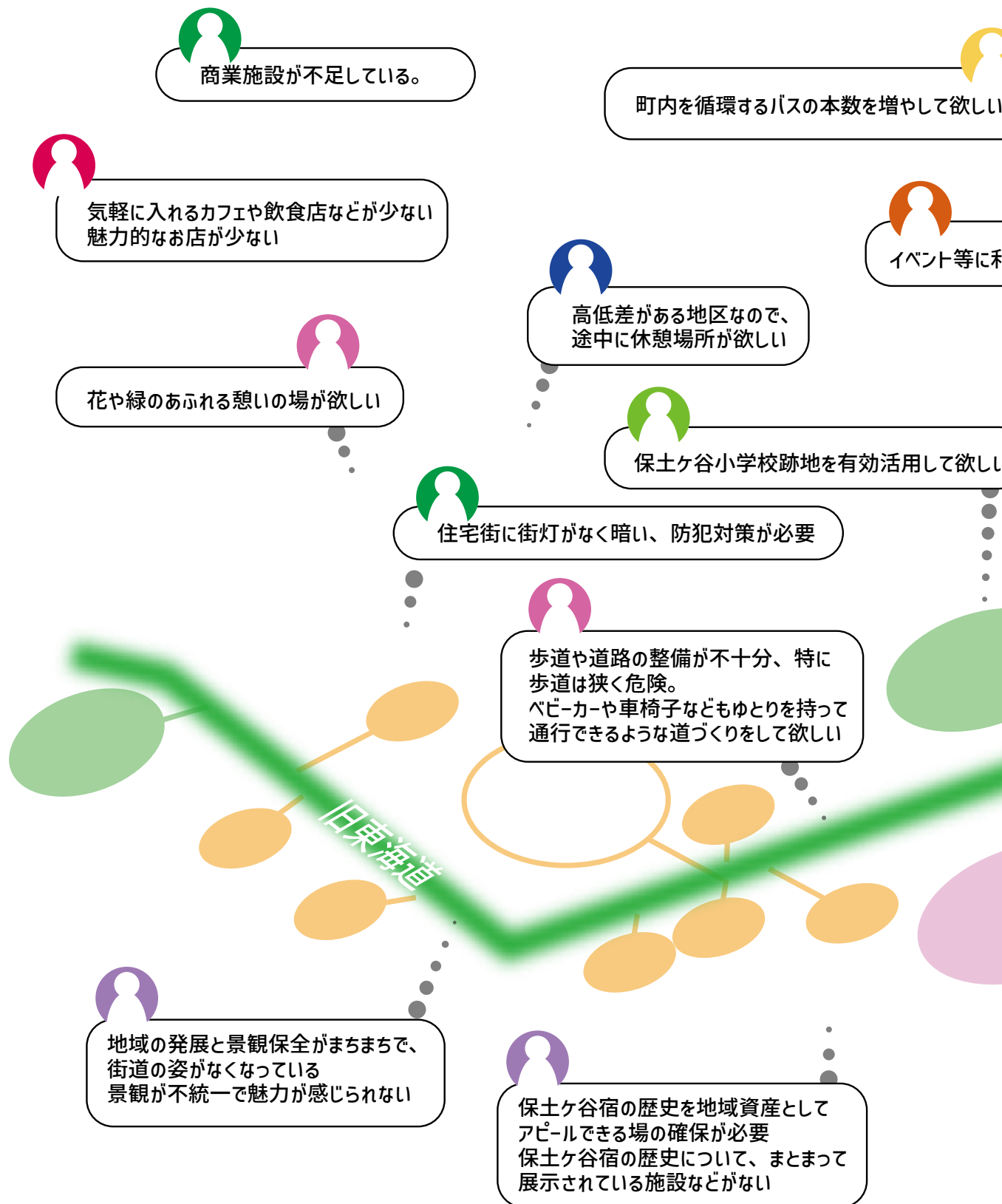
公民連携の事業スキーム

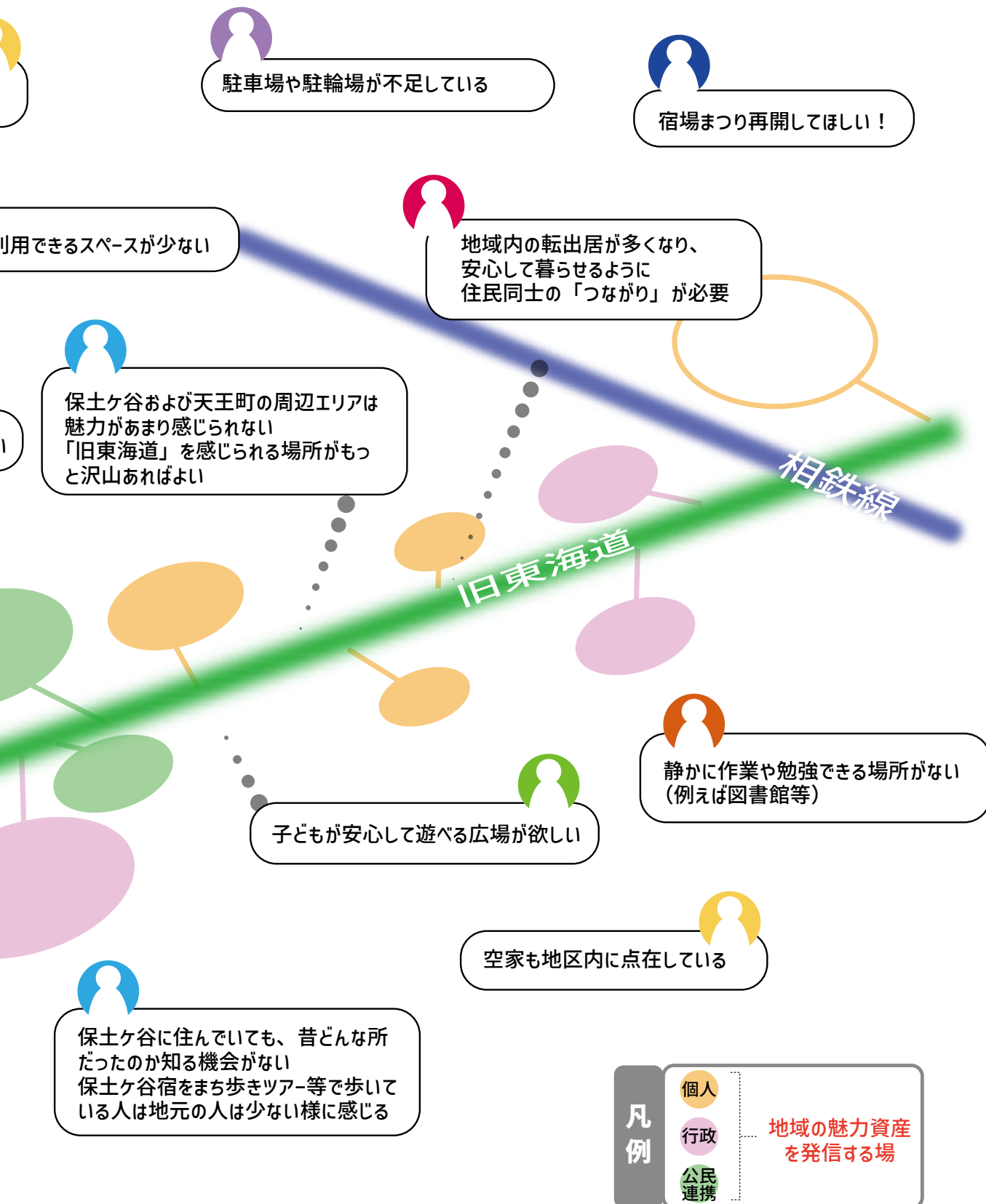


公益施設の複合化 / 指定管理者制度の導入



地区の現況や課題に対する声





魅力あふれるまちのシーン提案の声

安全安全な歩道や道路の整備して欲しい

旧東海道にふれ、宿場町が感じられる機会をつくる

保土ケ谷駅周辺だけでなく、保土ケ谷3丁目や権太坂の方の由緒ある歴史資産も一体で捉えて、連携していけたら活動の幅やが広がるね！

保土ケ谷小学校跡地を地域資産を発信する拠点として有効活用！

- ・ 保土ケ谷の農産物等の朝市や夜市の開催
- ・ 災害時に活用できる場所の確保
- ・ 子どもの遊び場としての積極的な活用・整備
- ・ 図書館の様な文化施設の整備
- ・ 誰もが気軽に使える居場所をつくる

川沿いの道筋を活かして憩いの空間を体感できる場としたい！
歴史散策コースやルートマップが欲しい！
休憩場所の整備

定期的にイベントが開催されてにぎわっている！

歴史的建造物を活かして魅力を感じられるようにしたい！

まちな
休憩

保土ケ谷西口商店街のにぎわいづくり

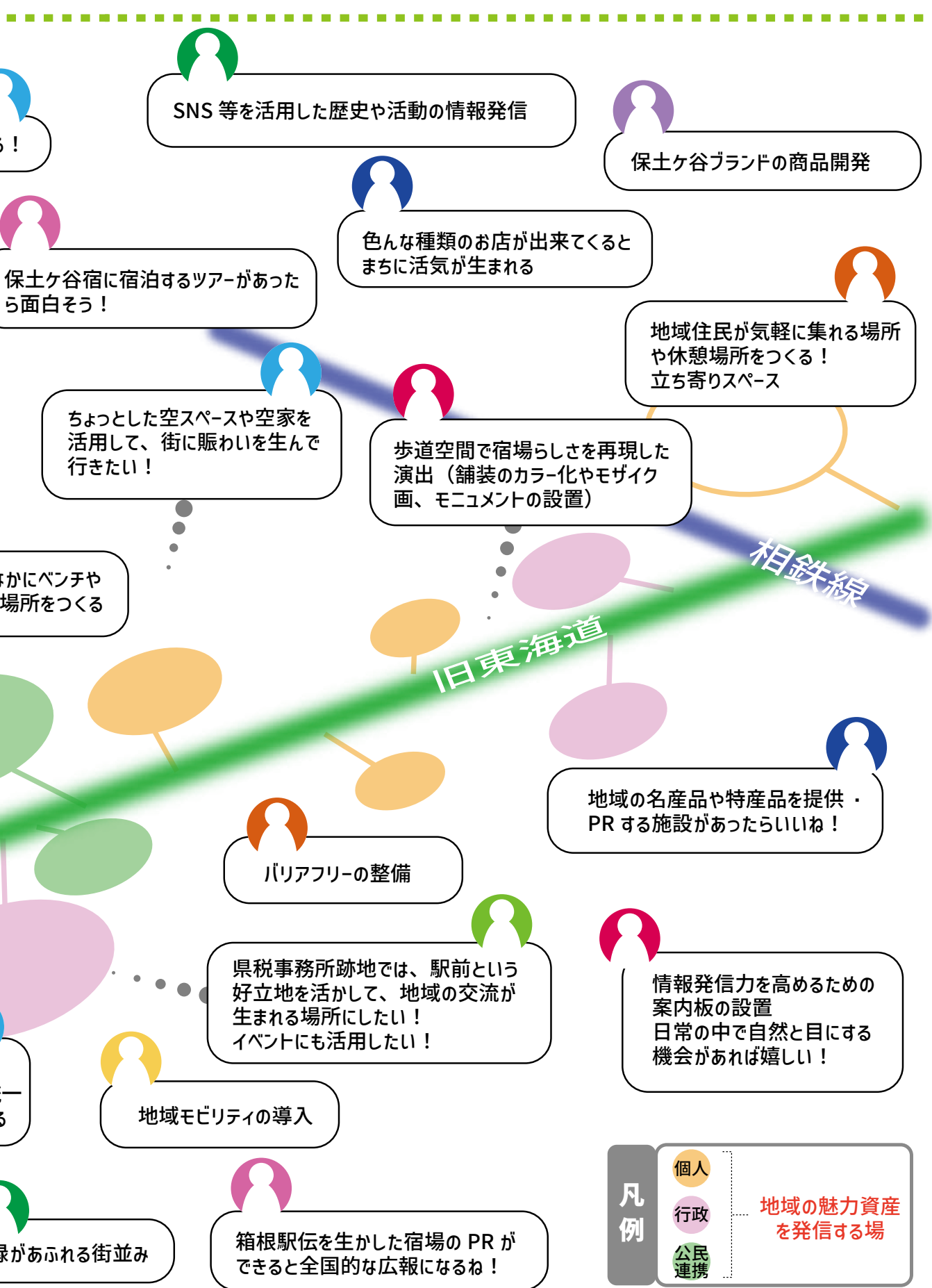
歴史に詳しい人から、
直接レクチャーを受けたい！
住んでいる場所をもっと知りたい！

街並みの景観に配慮
看板等の色彩統一など、統一性を持ったまちの景観をつくる

旧東海道沿いの特色あるまちづくりを希望

活動をもっとPRして欲しい！
知ってもらうことがはじまりの一步

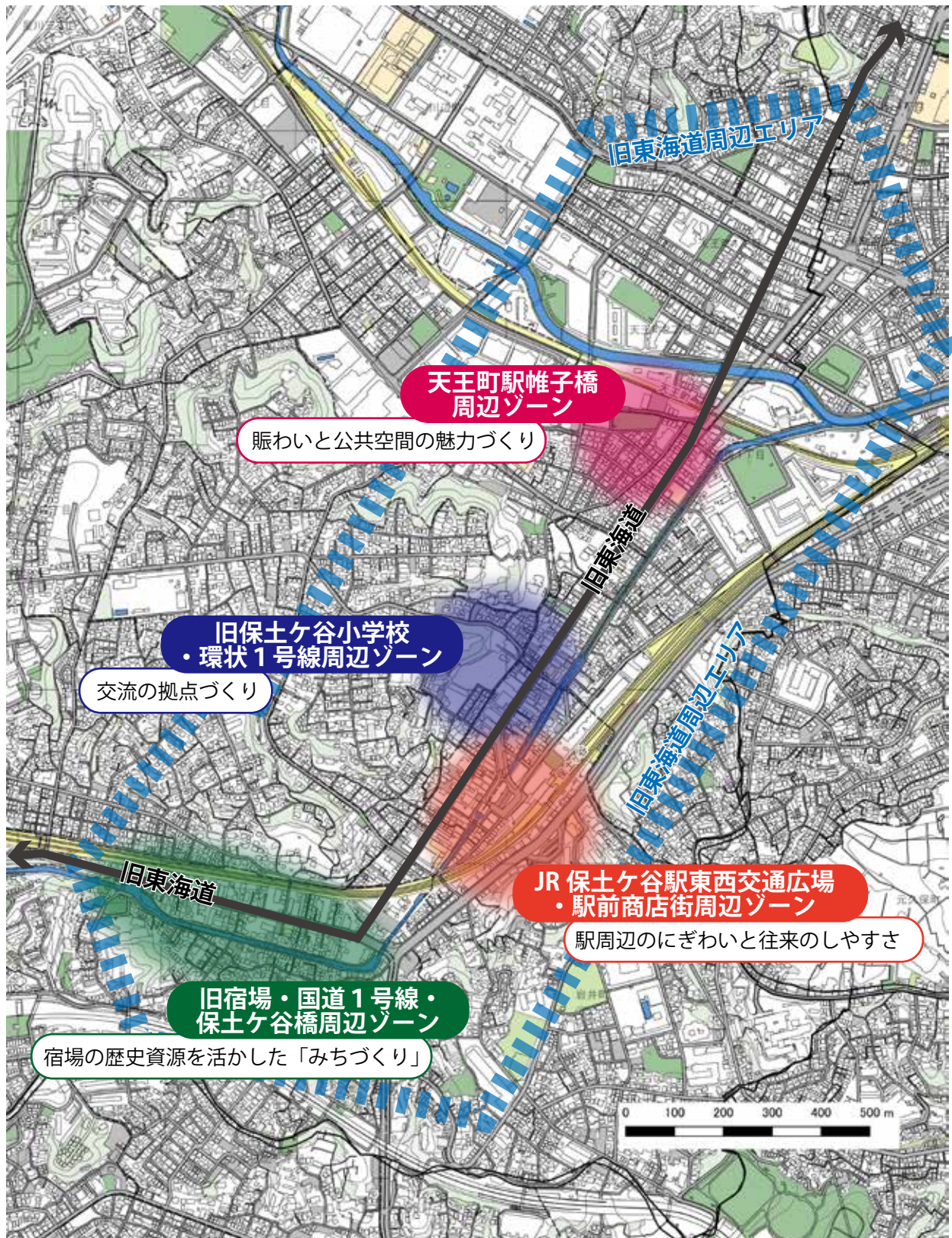
終



凡例

個人	地域の魅力資産を発信する場
行政	
公民連携	

ーゾーン別のまちづくり目標ー



各ゾーン共通プロジェクトの考え方

アクション
プラン
[1]

場や空間の有効活用

現況 ・旧東海道保土ヶ谷宿エリアには、有効的な利活用が出来ていない低・未利用地などが増加しつつある。これらの用地は、広さや立地条件が恵まれている場所等もあれば、小規模なもの、接道等の問題で長期的な活用が見込めないものなど、その要件はさまざまである。

地区課題 ・情報発信機能の不足
・催事スペースや休憩スペース、滞留空間の不足（活用インフラの未整備）
・地域交流の拠点機能の不足

考え方 ・地区内に点在する低・未利用地は、いわば地域資源のひとつと捉えることができる。
・これらの地域資源を地区課題解決のために有効活用を図ることで、新たな地区の魅力発掘や魅力の再認識につながり、点の魅力を増やし高めていくことで、エリア全体での魅力向上を目指す。
・点の魅力は、「保土ヶ谷らしさ」という共通のテーマを持つことで、個が群としての広がりを持った魅力向上に繋がる。
・空間や場所ごとの特性を活かした活用方策を見出すことで、旧東海道という歴史性が滲みだした、良好な地区環境を形成していく。

■活用が想定される低未利用地のリスト

- ・空地
- ・空家や空き店舗
- ・駐車場
- ・民地の沿道空間

■行政と連携して活用が見込まれる用地のリスト

- ・公園などの公的空間
- ・緑地、広場
- ・道路、歩道 等



例) 天王町駅前公園



例) 保土ヶ谷小学校跡地

・歴史を活かしたまちづくりを進めていく上で、地区内の低・未利用地や活用が見込める候補地、さらには地区内の歴史資源などのデータベースをつくる。

（地域資源の抽出→データベース化（オープンデータ）→活用したい人がみつける→交渉→活用）

4. エリア別のまちづくり目標

旧宿場・国道1号・保土ヶ谷橋周辺ゾーン

宿場の文化資源を活かした「みちづくり」

まちづくりの方針

1. 旧東海道保土ヶ谷宿の宿場らしさが感じられる景観づくり
2. 旅籠本金子屋等の歴史的建造物の保全活用
3. 歴史的建造物を活かした交流拠点づくり

エリア内の地域資源



旅籠本金子屋



松並木モニュメント



松並木プロムナード



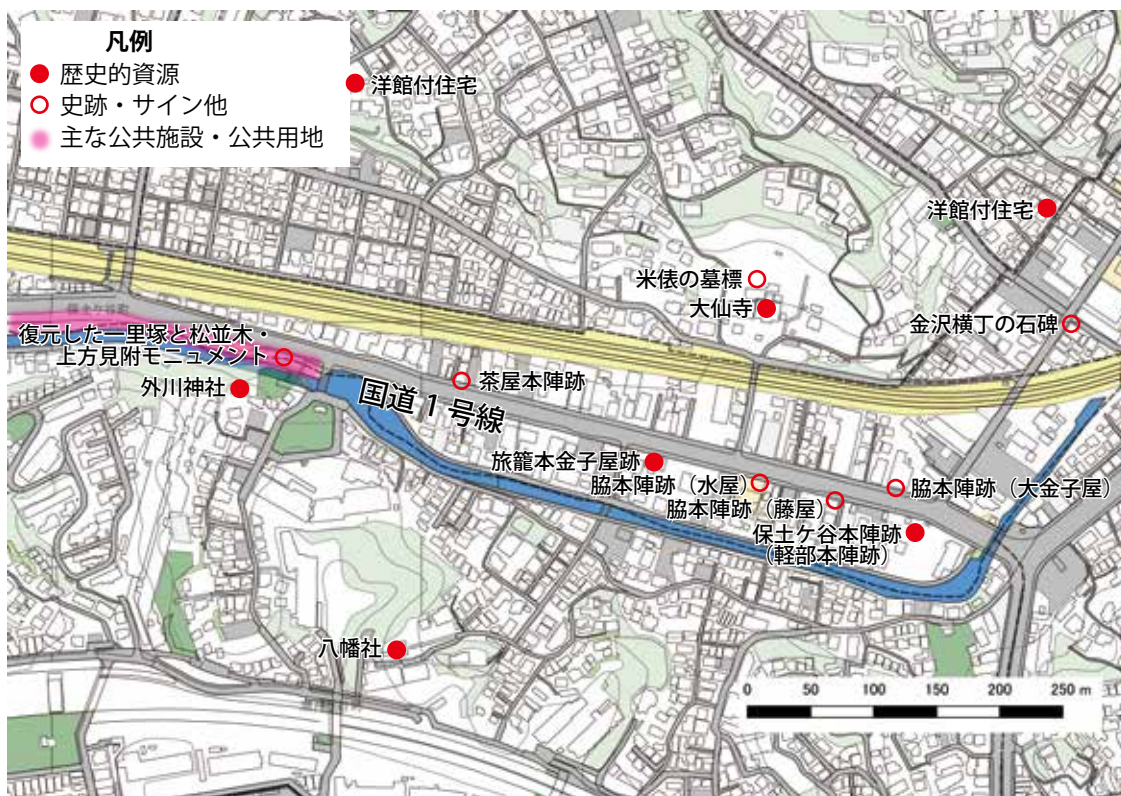
大仙寺



大仙寺



保土ヶ谷本陣跡



プロジェクトアイディア

1. 旧東海道保土ヶ谷宿の宿場らしさが感じられる景観づくり

- 課題** ・ 旧東海道保土ヶ谷宿は、本陣跡や旧旅籠跡をはじめとして歴史的資源が点在しているが、無秩序な開発も行われており、エリア全体での宿場らしさや歴史を感じられるまでには至っていない。
- 目標** ・ 点在する歴史資源の保全を図りつつ、秩序ある周辺の街並や歩行者環境の整備、緑の多い良好な環境を活かした場の創出を目指す。
- アイディア** ・ 旧東海道の連続性をもった意匠によるみちづくり
・ 川と道の魅力を活かした人々の憩いの場となる環境づくり
・ 松並木一里塚の歴史的な趣きを活かした街並みづくり

※みちづくりに関しては、平成 27 年度に「旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげる まち・みち再生計画」（横浜市道路局・保土ヶ谷区）を策定しており、その計画に基づく。

2. 現存する歴史的建造物などの保全活用

- 課題** ・ 旧東海道を物語る貴重な歴史資源も、地区の魅力アップに活かせるポテンシャルを活かしきれていない。
・ 旧東海道以外にも、現代にかけて蓄積してきた資源が存在するが、それらを活かし切れていない。
- 目標** ・ 旧東海道保土ヶ谷宿を象徴する歴史資源を広く周知してもらうことで、保全活用の機運を高める。
・ 保土ヶ谷宿の重層的な歴史にも広く目を向け、まちの魅力資源として活用を図る。
- アイディア** ・ 旧東海道保土ヶ谷宿に残る本陣跡や旅籠本金子屋などの歴史的資源の保存活用
・ 歴史的資源を活用した魅力ある街並みの創出

3. 歴史的建造物を活かした交流拠点づくり

- 課題** ・ 地域住民同士の交流やコミュニティが希薄になっている。
- 目標** ・ 地区の魅力的な歴史資源を拠り所として、それらの活用や顕在化させることによって、地域住民同士の交流の場の創出や、さらには来街者と地域住民の交流を促す。
- アイディア** ・ 旧東海道保土ヶ谷宿に残る本陣跡や旅籠本金子屋などの歴史的資源の保存活用
・ 来街者が訪れたいような魅力的なスポットを創る

JR 保土ヶ谷駅東西交通広場・駅前商店街周辺ゾーン

駅周辺のにぎわいと行き来のしやすい環境整備

まちづくりの方針

1. 旧保土ヶ谷県税事務所跡地を活用した情報発信・案内機能等の拠点づくり
2. 駅東西のバリアフリーを整備し、利用者の利便性の向上を図る
3. 旧東海道の道筋を活かした安全安心な歩行空間の創出を図る

地区の状況



県税事務所跡地



駅東口ロータリー



南口ロータリー（駐輪所）



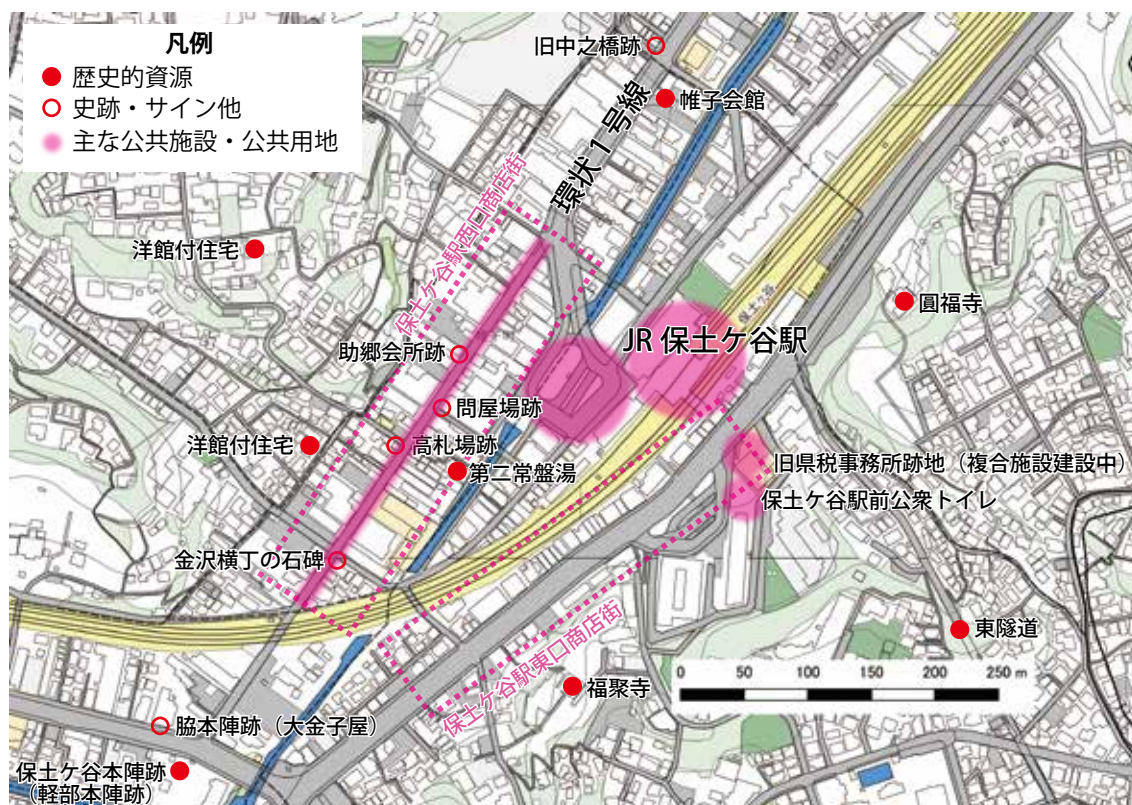
保土ヶ谷駅西口



保土ヶ谷駅西口商店街



保土ヶ谷駅西口商店街



プロジェクトアイデア

1. 旧保土ヶ谷県税事務所跡地を活用した情報発信・案内機能などの拠点づくり

- 課題** ・ 保土ヶ谷宿を中心に活発に歴史まち歩きなどが実施されているが、旧東海道の道筋にまちや歴史などの情報発信機能が不足している。
- 目標** ・ 敷地内に整備される地域交流スペースは、地域 PR や地域活動の拠点、さらには地域内外の交流を促進させる機能導入を図る。
- アイデア** ・ 県税事務所跡地の複合施設内おけるに地域交流スペースの魅力発信プロジェクト
 - ・ まち歩きの起点機能の確保
 - ・ 情報発信・地域の魅力発信の場としての活用検討

2. 駅東西のバリアフリー化と駅前機能の見直しによる利用者の利便性の向上を図る

- 課題** ・ 多くの人々が利用する駅前空間であるが、駅前交通広場～駅舎までの動線経路はバリアフリー化されていない。
 - ・ 保土ヶ谷の顔となる駅前広場は、歩行者の滞留空間が殆どなく、今井川上を蓋がけした駐輪場などで雑然としており、魅力が感じられない。
- 目標** ・ 駅や駅周辺利用者など誰もが安全快適に利用できる空間づくりを行う。
 - ・ 地域資源を活かして、保土ヶ谷の顔となる駅前空間を設える。
- アイデア** ・ 地権者の協力を得られるときは、保土ヶ谷駅改札階からロータリーへのバリアフリールートが確保できるよう協議会などで調整を進める
 - ・ 駅前広場機能のあり方（駅広機能や駐輪機能の再整理など）を考える場の醸成
 - ・ 駅前公共空間の利活用

3. 旧東海道の道筋を活かした安全安心な歩行者空間の創出を図る

- 課題** ・ 保土ヶ谷駅西口商店街の通りは、1 方通行の直線道路で、幅員が広いと速度を出しやすい。環状 1 号線や保土ヶ谷駅方面へ向かう道筋であるため、交通量が非常に多く、交差点の見通しも悪い。
- 目標** ・ 商店街通りに安全安心な歩行環境を整備し、さらには商店街利用者の利便性向上を図る。
 - ・ 安全安心な歩行者空間の整備と合わせて、地域の人々が集え・憩える場づくりを生み出す。
- アイデア** ・ 車道幅員を狭め、ゆとりある歩行者空間を創出する社会実験プロジェクトの実施（暫定的なプロジェクトでの実証を経て本格整備へ）

アクション
プラン
[2]

旧保土ヶ谷小学校・環状1号線周辺ゾーン

交流拠点づくり

まちづくりの方針

1. 旧保土ヶ谷小学校跡地を活用した多世代での交流の輪を広める拠点としての活用
2. 保土小跡地周辺施設（帷子会館・旧交通反則通告センターなど）も含めたエリアの魅力向上

エリア内の地域資源



旧保土ヶ谷小学校跡地



旧保土ヶ谷小学校跡地



イコットハウス



旧交通反則通告センター



櫓崎邸



帷子会館



プロジェクトアイデア

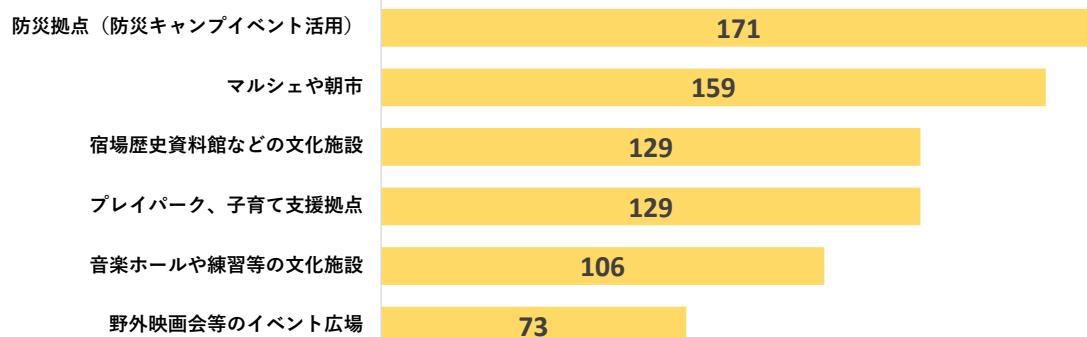
アクション
プラン
[3]

1. 旧保土ヶ谷小学校跡地を活用した多世代での交流の輪を広める拠点としての活用

- 課題** ・旧保土ヶ谷小学校跡地は、平成 12 年の小学校移転から、イコットハウス・広場として暫定活用されて 20 年以上が経過しており、好立地を活かした一層の活用が望まれる。
- 目標** ・低未利用の旧保土ヶ谷小学校跡地の有効活用を図り、地区全体の魅力アップにつなげる。
・緑豊かな環境を活かすことを重視したさらなる土地の有効活用を図る。
- アイデア** ・旧保土ヶ谷小学校跡地の利活用として多世代交流の輪を広げるためのイベント等を行う。
(下図参照)
・住民と行政が協力して跡地利用のプランづくりを進める。

自治会町内会役員の方々を対象としたアンケートの結果

保土ヶ谷小学校跡地について今後どのように活用されることを望みますか。



(自由回答の一例) 旧東海道を感じられる場所 貴重な原っぱ・広場 図書館 イベント利用 道の駅
焚火や BBQ ができるイベントスペース 気軽に使える場所 子どもの遊び場 散歩等で立ち寄れるカフェ
親子が集まれる場所 商業施設や飲食店 花や緑があふれる憩いの場 アートホールに次ぐ施設 道の駅等

2. 旧保土ヶ谷小学校跡地の活用に伴った地域の歴史資源や未利用地の活用検討

- 課題** ・旧保土ヶ谷小学校跡地周辺には、歴史資源や低未利用地が複数存在しており、地区での一体性を持ったまちの魅力が望まれる。
- 目標** ・地域資源を顕在化させ、各施設の位置づけや役割、機能導入なども複合的に検討を行い、地区全体としての面的な魅力を上げていく。
- アイデア** ・帷子会館・旧交通反則通告センターなども含めた一体的な検討

天王町駅帷子橋周辺ゾーン

にぎわいと交流空間の魅力づくり

まちづくりの方針

1. 旧保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口にふさわしい一体的な空間と魅力づくり

エリア内の地域資源



相鉄線高架下



天王町駅前公園



帷子場跡モニュメント



天王町駅広場前



天王町商店街



洪福寺松原商店街



プロジェクトアイディア

1. 旧保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口にふさわしい一体的な空間と魅力づくり

- 課題** ・ 旧東海道宿周辺エリアの玄関口となる天王町駅には、まちの情報発信機能や休憩所、イベント会場としての利用など、滞留空間としての活用が乏しい。
- 目標** ・ 玄関口として情報発信や滞留機能の導入を目指し、駅前空間の価値向上を図ると共に、さらには旧東海道の道筋を活かして、空間の一体的な魅力を創出させる。
- アイディア** ・ まち歩きの出点及び中継点としての情報発信機能の導入
 - ・ ライトアッププロジェクト
 - ・ 相鉄高架下利用
 - ・ 駅前広場や公園を活用したにぎわいの創出
 - ・ まちの顔としての景観デザインの統一

5. 歴史を活かしたまちづくりプロジェクト

アクション プラン [1]

低・未利用地などの有効活用

※「各ゾーン共通プロジェクトの考え方」（P13 参照）

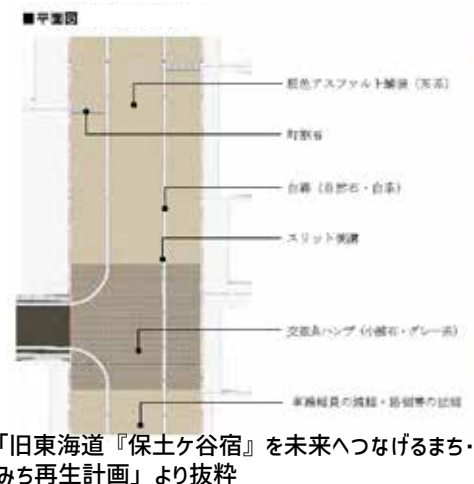
～具体的なプロジェクト例～

- ・ まちのポケットスペースを活用した旧東海道保土ヶ谷宿 PR プロジェクト（サイン板の設置など）
- ・ 低未利用地となっている場所などをごうどいち等で活用

アクション プラン [2]

保土ヶ谷駅西口商店街の安全安心な歩行者環境整備と宿場らしさ復活プロジェクト

- ・ 保土ヶ谷駅西口商店街は、一方通行の直進道路のため、車は速度が出やすく、さらに交通量も多い課題がある。道路幅員が広く、一方で歩行者空間は狭小となっている。
- ・ この課題に対して、道路空間を再構築することで、安全性を高め、さらには商店街の賑わいや活性化のための道路空間の有益な活用が考えられる。
- ・ 道路空間の活用を柔軟に行うためには、ほこみち制度を運用し、利便増進誘導区域への指定が有効である。（天王町商店街は指定済み）
- ・ まずは、歩道空間を拡げる社会実験の実施を目標に、道路空間の活用のあり方を検討していく。



参考：歩行者利用増進道路（ほこみち）制度

- ・ 令和2年5月改正の道路法において、新たに「歩行者利便増進道路」（通称：ほこみち）制度が創設
- ・ 道路空間を活用する際に道路占用許可が柔軟に認められるなどのメリットがある

アクション プラン [3]

旧保土ヶ谷小学校（イコット広場）を活用した歴史文化の発信プロジェクト

- ・ 令和3年度（予定）の保土ヶ谷小学校跡地を活用した防災×朝市×歴史・文化発信のイベント実施を皮切りに、継続的なプロジェクト化を目指すと共に、地域全体で低未利用地を核としたまちの活性化への意識付けを狙う。
- ・ 子どもから大人まで参加できるテーマ性を持ったプロジェクト企画を立案し、歴史等に興味関心がないニーズにも、保土ヶ谷の歴史文化にふれる機会を創出する。



保土ヶ谷駅前公園での防災キャンプの実施例

参考：敷地概要

- ・ 敷地面積：6,140 m²、用途地域：第一種住居地域、建ぺい率：60%、容積率：200%
- ・ 建築基準法第22条による区域、附置義務等：周辺地区又は自動車ふくそう地区（駐車場条例）

6. まちづくり協議会の構成図

協議会設立の目的

「(仮) 保土ヶ谷の魅力を未来へつなげるまちづくり協議会」は、「旧東海道保土ヶ谷宿エリアの地域資源を活かした魅力向上プラン」に基づくまちづくり活動を円滑に進めるために組織します。保土ヶ谷の魅力づくりを面的に捉え、公共や民間、個人などの点での取組みを、旧東海道という軸線でつなげ、地区全体の魅力向上や活性化につなげることを大きな目標としています。

まちづくり協議会メンバーの役割

まちづくり協議会は、プランのエリア区域に属する6つの地区連合町内会長、商店街や地域組織等、まちづくり活動への有志らで構成します。

(協議会の役割)

- ・ まちや歴史の情報発信
- ・ 保土ヶ谷らしさをつくり出す横繋ぎやアドバイス
- ・ 相談窓口
- ・ プロジェクト生み出す(つくる)
- ・ 個別の取組みの応援
- ・ 仲間や関心を持つ人を増やす など

(役割分担)

- 6つの地区連合町内会長 …町内会としての意見取りまとめ(合意形成等)、まちづくり活動の情報把握や調整等への協力、町内会での情報共有
- 商店街や地域組織等 …まちづくりプロジェクトの企画や実施等への協力
- まちづくり活動への有志者 …まちづくりに関する窓口対応、まちづくりプロジェクトの企画検討、実行・調整など

